Cloud Protection
By WithSecure

Cloud Protection for Salesforce

Quick Installation Guide

目次

1 ソリューション概要.....5
2 導入.....7
2.1 Salesforceの対応エディション.....7
2.2 前提条件.....7
2.2.1 Chatter 機能を有効にします.....7
2.2.2 Chatter 設定で、投稿とコメントの編集を許可します.....8
2.2.3 添付ファイルを Salesforce ファイルのアップロードとして許可する.....8
2.2.4 他の言語を設定する.....8
3 インストール.....11
3.1 アプリケーションをインストールする.....11
4 権限セットとライセンスの指定.....13
4.1 Cloud Protection for Salesfore |User 権限セットを指定する.....13
4.2 Cloud Protection for Salesfore |Admin 権限セットを指定する.....14
4.3 Cloud Protection for Salesfore | ライセンスを指定する.....14
5 アップグレードする.....17
5.1 アプリケーションをアップグレードする.....17
6 アンインストール.....19
6.1 権限セットの指定を削除する.....19
6.2 アプリケーションをアンインストールする.....19

第 1 章 ソリューション概要

Cloud Protection for Salesforceは、Salesforceプラットフォームの既存のセキュリティ機能を強化および拡張するように設計されたクラウドベースのセキュリティソリューションです。

Cloud Protection for Salesforceは、Salesforce Cloudに出入りするコンテンツを分析します。これにより、Salesforce組織からアップロードまたはダウンロードされるファイルやURLが、会社、パートナー、顧客に対するサイバー攻撃に使用されることがなくなります。

このソリューションには、SalesforceアプリケーションとWithSecure Security Cloudが含まれています。WithSecure Security Cloudは、ファイルとWebサイトのレピュテーションとセキュリティサービスを提供します。Cloud Protection for Salesforceアプリケーションは、会社が使用しているSalesforce Sales、Service、またはExperience Cloud（旧名「Community Cloud」）にインストールされます。 他のソフトウェアをインストールしたり、ネットワーク構成を変更したりする必要はありません。

WithSecure Security Cloudは、脅威を分析して対応するためのクラウドベースのシステムです。数百万のセンサー ノードから脅威インテリジェンスを収集し、デジタル脅威の大規模なデータベースを作成します。このデータベースは、世界的なサイバー脅威をリアルタイムで表示します。

Cloud Protection for Salesforceは、このデータを使用して、グローバルまたはローカルの脅威状況の変化に迅速に対応します。たとえば、当社のヒューリスティック分析と動作分析によって新たなゼロデイ攻撃が検出された場合、当社はこの情報をすべての顧客と共有します。 これにより、高度な攻撃が最初に検出された直後に無効化することができます。

このソリューションは遅延を短縮するように設計されており、Salesforceの使用には影響しません。ファイルまたはコンテンツを分析する際、このソリューションはWithSecure Security Cloudを利用する多段階プロセスを使用します。このプロセス内のステップは、コンテンツのリスク プロファイルに基づいてアクティブ化されます。たとえば、ゼロデイ マルウェアやその他の高度な脅威を使用した攻撃を防ぐように設計されたCloud Sandboxingテクノロジーを使用して、リスクの高いファイルのみがより徹底的な分析を受けます。

第 2 章 導入

このセクションでは、Cloud Protection for Salesforceを組織に導入する手順について説明します。

アプリケーションの導入には次のステップがあります:

- アプリケーションをインストールする
- 権限セットとライセンスの指定
- アプリケーションの設定

以前のバージョンからアップグレードする場合は、5.1 アプリケーションをアップグレードするを参照してください。

2.1 Salesforceの対応エディション

Cloud Protection for Salesforceアプリケーションは、Salesforce ClassicとLightning Experienceの両方のユーザインターフェースで使用できます。

Cloud Protection for Salesforceアプリケーションは、次のSalesforceエディションと互換性があります。

- Enterprise
- パフォーマンス
- Unlimited
- デベロッパー

> 注 : アプリケーションを運用環境にインストールする前に、サンドボックスでテストすることを強くお勧めします。

2.2 前提条件

Cloud Protection for Salesforceのインストールを開始する前に、ここでSalesforce設定を確認してください。

2.2.1 Chatter 機能を有効にします

Cloud Protection for Salesforceをインストールして使用するには、Salesforce組織内でChatter機能が有効になっている必要があります。

Chatter 機能を有効にするには

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. 機能設定 > Chatter > Chatter 設定 を開きます。
4. 設定を変更するために [編集] を選択します。
5. Chatter 設定の下の [有効化] を選択し、[保存] を選択します。

2.2.2 Chatter 設定で、投稿とコメントの編集を許可します

Chatter の投稿とコメントでユーザーの言及が問題が発生することを阻止するために Chatter 設定の [ユーザに投稿とコメントの編集を許可] 設定を有効にすることを強く推奨します。

この設定をSalesforceの組織でオンにするには

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. 機能設定 > Chatter > Chatter 設定 を開きます。
4. 設定を変更するために [編集] を選択します。
5. [投稿とコメントの変更] で [ユーザに投稿とコメントの編集を許可] を選択して、[保存] を選択します。

2.2.3 添付ファイルを Salesforce ファイルのアップロードとして許可する

ファイルを添付ファイルとして保存し、Salesforce Classicのユーザーインターフェイスを使用する場合は、添付ファイルの設定ではなく、[Salesforce Files としてアップロードされたレコードの添付ファイル関連のファイル] の設定を有効にすることを推奨します。

この設定をオンにすると、添付ファイルとしてアップロードされたファイルは、アップロードまたはダウンロード時にSalesforceファイルに変換され、Cloud Protection for Salesforceによってスキャンされます。

この設定をSalesforceの組織でオンにするには

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. 機能設定 > Salesforce Files > 一般設定 を選択します。
4. 設定を変更するために [編集] を選択します。
5. [レコードの [添付ファイル] 関連リストにアップロードされたファイルは、添付ファイルとしてではなく Salesforce Files としてアップロードされます] を選択して、[保存] を選択します。

2.2.4 他の言語を設定する

Cloud Protection for Salesforceのデフォルト言語は英語ですが、他の言語を設定できます。

Cloud Protection for Salesforceは現在次の言語をサポートしています。

- 中国語（簡体字）
- 中国語（繁体字）
- チェコ語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- 研磨

- ポルトガル語
- ロシア語
- スロバキア
- スペイン語
- タイ語
- トルコ語

> 注 : インストール時に管理者が選択した言語が警告の表示言語になります。

他の言語を設定するには

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. メニューから ユーザ インターフェース > 翻訳ワークベンチ > 翻訳設定 を選択します。
4. 有効にする言語の [アクティブ] チェックボックスを選択します。

Cloud Protection for Salesforceで有効にした言語をアカウント設定の 設定 > 個人情報 >言語とタイム ゾーン から選択できるようになります。

第 3 章 インストール

ここでは、アプリケーションをインストールする方法について説明します。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、5.1 アプリケーションをアップグレードするを参照してください。

3.1 アプリケーションをインストールする

次の方法でアプリケーションを Salesforce 環境にインストールできます。

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. Salesforce AppExchange マーケットプレイスを開き、Cloud Protection アプリケーションを探し、[今すぐ入手] を選択してインストールを開始します。

   Cloud Protection は Salesforce AgentExchange から入手できます。https://appexchangejp.salesforce.com/appxListingDetail?listingId=a0N3A00000EJGqnUAH

> 注 : リリースプレビュー版またはベータ版をインストールする場合は、Cloud Protection for Salesforceアプリケーションを送信すると、管理インストールパッケージへの直接リンクが届きます。インストールを開始するには、Webブラウザでそのリンクを開いてください。

> 注 : すでにリリースプレビュー版やベータ版のアプリケーションがインストールされている場合は、それをアンインストールしてから新しいバージョンのアプリケーションをインストールしてください。

3. アプリケーションのインストール先 (Salesforce プロダクション環境またはサンドボックス) に応じて [本番組織にインストール] または [Sandbox にインストール] を選択し、使用条件に同意します。
4. インストールの詳細をクリックします。
5. [私は契約条件を理解し、同意します] を選択し、[確認してインストール] を選択します。
6. [管理者のみのインストール] を選択し、[インストール] を選択します。
7. [はい、これらのサードパーティ Web サイトにアクセスを許可します] を選択して、アプリケーションが WithSecure Security Cloud サービスに接続することを許可します。[次へ] を選択します。
8. インストールが完了するまで待ちます。

> 重要 : アプリのインストールに時間がかかっているメッセージが届く場合、Salesforce からアプリがインストールが完了したメールが届くまでお待ちください。

9. インストールが完了したら、[OK] をクリックします。

Cloud Protection for Salesforceがインストールされ、使用できます。

Cloud Protection for Salesforceをインストールした後:

1. 権限セットとライセンスの指定します。
2. アプリケーションの設定を構成してください。手順については、管理者ガイドを参照してください。

第 4 章 権限セットとライセンスの指定

アプリケーションをインストールした後、Cloud Protection for Salesforceの権限セットとライセンスを割り当てる必要があります。

4.1 Cloud Protection for Salesforce | User 権限セットを指定する

Visualforceページにアクセスできる組織内のすべての有効ユーザーに [Cloud Protection User権限セット]を割り当てる必要があります。この権限セットには、ソフトウェアライセンスを持たないユーザーも対象としたダウンロード保護とURLクリック時保護が含まれます。Cloud Protection Userバージョン3.1では、ライセンスの種類に応じてSalesforceユーザーに [Cloud Protection for User]または[Cloud Protection for guest user]権限セットを割り当てることができる、再設計された [ユーザー権限セット管理]ツールが導入されています。

注 : [ユーザー権限設定]ツールを使用する前に確認すべき事項:

- [Cloud Protection ユーザー]権限は、ユーザー インターフェースを操作し、クリック イム保護 (CTP) またはファイル ダウンロード保護を必要とするユーザーにのみ割り当てることをお勧めします。
- バッチ Apex に 200 人を超えるユーザーを挿入する場合は、自動割り当てを無効にし、権限セット ールを使用して権限セットを手動で割り当てることをお勧めします。
- 関連するすべてのユーザー グループで自動権限セットが有効になっていることを検証する必要があります。
- 新しい Salesforce ライセンスグループには、最初に手動で割り当てる必要があります。新しいユーザーを自動的にオンボーディングするには、ユーザーを作成する前に、グループの [自動割り当て] · イッチを有効にする必要があります。
- 統合ユーザーの割り当てを検証する必要があります。統合ユーザーに対しては自動割り当てが無効になっており、[統合権限セットは]自動的に割り当てられません。
- このツールを使用しても、カスタム権限セットは移行されないことに注意してください。

Cloud Protection ユーザーと Cloud Protection ゲスト ユーザー権限セットを割り当てるには、以下の手順に従います。

1. システム管理者のアカウントで Salesforce にログインします。
2. [アプリケーション ランチャー] から [Cloud Protection] を開きます。
3. [管理] > [ツール] > [管理ツール] を開いて]、[ユーザー権限セットの管理]の [割り当て]を選択します。

   このツールには、すべての Salesforce ユーザー ライセンスの種類、合計ユーザー数、権限セットを持つユーザー数、自動割り当てを有効/無効にするオプション、ライセンス レベルですべて割り当て/すべて割り当て解除、権限セットをグローバルに削除するすべて割り当て解除が一覧表示されます。

   - ユーザー ライセンスは、ユーザー総数に基づいて降順に並べられます。
   - 自動割り当ては、ユーザーの再アクティブ化とユーザーのオンボーディングの変更時にのみ発生します。
   - デフォルトでは、新規インストールでは自動割り当てはオフになっています。アップグレードでは以前の設定が保持されます。

- このツールは、権限セットの割り当ておよび削除中にトースト通知、アラート、イベントを表示します。検証により、権限セットの割り当てに適さないライセンスタイプが特定された場合は、トースト通知のみが表示されます。
- 権限セットの割り当てが失敗した場合に電子メール通知を送信するオプションが提供されます。

アップグレード シナリオでは、現在のライセンスのスナップショットが考慮されます。

自動アップグレードが有効になっている場合、アップグレード後の自動割り当ては、現在 User または Guest 権限セットに割り当てられているライセンスにのみ適用されます。

作成された権限セットのカスタム クローンはこの移行プロセスでは考慮されておらず、これまで考慮されたこともありません。

アップグレード時に、システムは既存のユーザーに権限セットを割り当てます。ユーザーエンティティが変更された場合（ユーザーの再アクティブ化またはオンボーディング）、自動権限セットルールが呼び出されます。

4.2 Cloud Protection for Salesforce ｜Admin 権限セットを指定する

アプリケーションの設定、アナリティクス (分析)、およびレポートにアクセスすることが許可されるユーザに、Cloud Protection Admin (管理者) 権限を割り当てる必要があります。

次の方法で Cloud Protection Admin ユーザの権限セットを指定できます。

1. システム管理者のアカウントで Salesforce にログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. ユーザ > 権限セット > Cloud Protection 管理 を選択します。
4. [割り当ての管理] をクリックします。
5. [割り当てを追加] をクリックします。
6. Cloud Protection for Salesforceアプリケーション、分析、およびレポートにアクセスする必要があるすべてのユーザを選択し、[割り当てを追加]を選択します。

4.3 Cloud Protection for Salesforce ライセンスを指定する

Cloud Protection for Salesforceのライセンスは、アプリケーションを管理するすべてのユーザ、または有害かつ禁止コンテンツに関連するセキュリティ脅威から保護されているすべてのユーザに指定する必要があります。

> 注 : ライセンスが指定されていないユーザは、Cloud Protection for Salesforceによって保護されません。Salesforce 組織に侵入する可能性のある有害なコンテンツや禁止コンテンツにアクセスする危険性があります

次の方法で、Cloud Protection for Salesforceライセンスをユーザに指定できます。

1. システム管理者のアカウントで Salesforce にログインします。
2. [アプリケーション ランチャー] から [Cloud Protection] を開きます。
3. 管理 > ライセンスを開きます。
4. 購入したライセンスの数に応じて、次のいずれかを実行します。

- 限られた数のユーザに対して ライセンスを購入した場合、ライセンス モードを[選択したユーザ] に設定し、[保存] を選択して次の手順に進みます。
- すべてのユーザに対して ライセンスを購入した場合、ライセンス モードを [すべてのユーザ] に設定し、[保存] を選択して次の手順に進みます。

5. [ライセンス ユーザを選択] リンクを選択します。
「ライセンスを指定」ウィンドウが開きます。
6. ユーザ名、プロフィール、部門別に検索するか、リストをスクロールして、ライセンスが必要な · ーザを探します。
7. [操作] 列の [指定] を選択して、選択したユーザにライセンスを指定します。[すべて指定]を選択して、検索で取得したユーザのリストにCloud Protection for Salesforceライセンスを指定することもできます。
8. 設定が完了したら [閉じる] を選択します。
· ーザープロファイルまたはその他の基準で自動ライセンス割り当てをオンにすることを検討できます。
a) [ライセンスの自動割り当てを管理します] をクリックします。
b) 新しいライセンスの自動割り当てルールを追加するための検索条件を定義します。
検索条件には、名前、プロファイル、役割、メールアドレス、会社、部門、およびライセンスの値を使用できます。検索ボックスは、部分一致と完全一致をサポートしています。
    - `Profile=System`は、プロファイル名に`System`（`System Administrator`など）を含むユーザーを検索します。
    - `Profile="System"`は、「`System`」という名前のプロファイルを持つユーザのみを検索します。
    - パーセント記号をワイルドカードとして使用して、任意の文字に一致させることができます。たとえば、`Profile=S%A`は、`System Administrator`だけでなく、`Standard User`などのプロファイルを持つユーザも検索します。
c) [追加] をクリックします。
ルールがテーブルに追加され、必要に応じてさらにルールを追加できます。

> 注 : 追加したルールは、行間の「OR」（または）を使用して読み込まれます。つまり、ルールは、テーブル内のルールのいずれかに一致する新規ユーザにのみ、ライセンスが自動的に割り当てられることを意味します。「AND」（および）条件を定義するには、検索条件を同じ行に記述します。

d) 指定したルールを使用するには、[自動ライセンス割り当て] をオンにします。

ライセンスが多数のユーザーに割り当てられている場合、アプリはこれらのライセンスをバックグラウンドで割り当て、ステータスまたはエラーをアラートとして報告します。

第 5 章 アップグレードする

ここでは、アプリケーションをアップグレードする方法について説明します。

5.1 アプリケーションをアップグレードする

Cloud Protection for Salesforceの最新バージョンは Salesforce AppExchangeで常に利用できます。アップグレードしても、既存の設定と分析データはすべて保持されます。

> 注 : アプリケーションのリリースプレビューまたはベータ版からアップグレードすることはできません。以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンのアプリケーションをインストールしてください。

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. Salesforce AgentExchange マーケットプレイスを開き、Cloud Protection アプリケーションを探し、[今すぐ入手] をクリックしてインストールを開始します。

   Cloud Protection は Salesforce AgentExchange から入手できます。https://appexchangejp.salesforce.com/appxListingDetail?listingId=a0N3A00000EJGqnUAH
3. アプリケーションのインストール先 (Salesforceプロダクション環境またはサンドボックス) に応じて [本番組織にインストール] または [Sandbox にインストール] を選択し、使用条件に同意します。
4. インストールの詳細をクリックします。
5. [私は契約条件を理解し、同意します] を選択し、[確認してインストール] を選択します。
6. [管理者のみのインストール] を選択し、[アップグレード] を選択します。
7. [はい、これらのサードパーティ Web サイトにアクセスを許可します] を選択して、アプリケーションが WithSecure Security Cloud サービスに接続することを許可します。[次へ] を選択します。
8. インストールが完了するまで待ちます。

   > 重要 : アプリのインストールに時間がかかっているメッセージが届く場合、Salesforce からアプリがインストールが完了したメールが届くまでお待ちください。
9. インストールが完了したら、[OK] をクリックします。

Cloud Protection for Salesforceがアップグレードされました。

第 6 章 アンインストール

このセクションでは、削除の手順を説明します。Cloud Protection for Salesforce貴社から。

アプリケーションの削除には次の手順があります。

- 権限セットの指定削除
- アプリケーションのアンインストール

6.1 権限セットの指定を削除する

アンインストールする前にCloud Protection for Salesforceアプリケーションを削除するには、Salesforce 組織内のユーザーに割り当てた Cloud Protection ユーザーおよびCloud Protection 管理者権限セットを削除する必要があります。

権限セットを削除するには

1. システム管理者のアカウントでSalesforceにログインします。
2. [アプリケーション ランチャー] から [Cloud Protection] を開きます。
3. 管理 > ツールを開き、「ユーザの権限を管理する」で [削除] を選択します。
4. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
5. ユーザ > 権限セット > Cloud Protection 管理 を選択します。
6. [割り当ての管理] をクリックします。
7. [Remove Assignments (指定の取り除き)]
8. [OK] をクリックしてユーザの削除を確定します。

6.2 アプリケーションをアンインストールする

すべてのユーザ権限を取り除いた後、Cloud Protection を削除する必要があります。次の方法で

Cloud Protection をアンインストールできます。

1. システム管理者のアカウントで Salesforce にログインします。
2. 環境設定を開き、[設定] を選択します。
3. アプリケーション > インストール済みパッケージ を開きます。
4. [Cloud Protection] の横にある [アンインストール] を選択します。
5. 「パッケージのアンインストール」ページで、下にスクロールして [はい、このパッケージをアンインストールして、すべての関連コンポーネントを永久に削除します] を選択します。

Cloud Protection がアンインストールされると、メール通知が届きます。